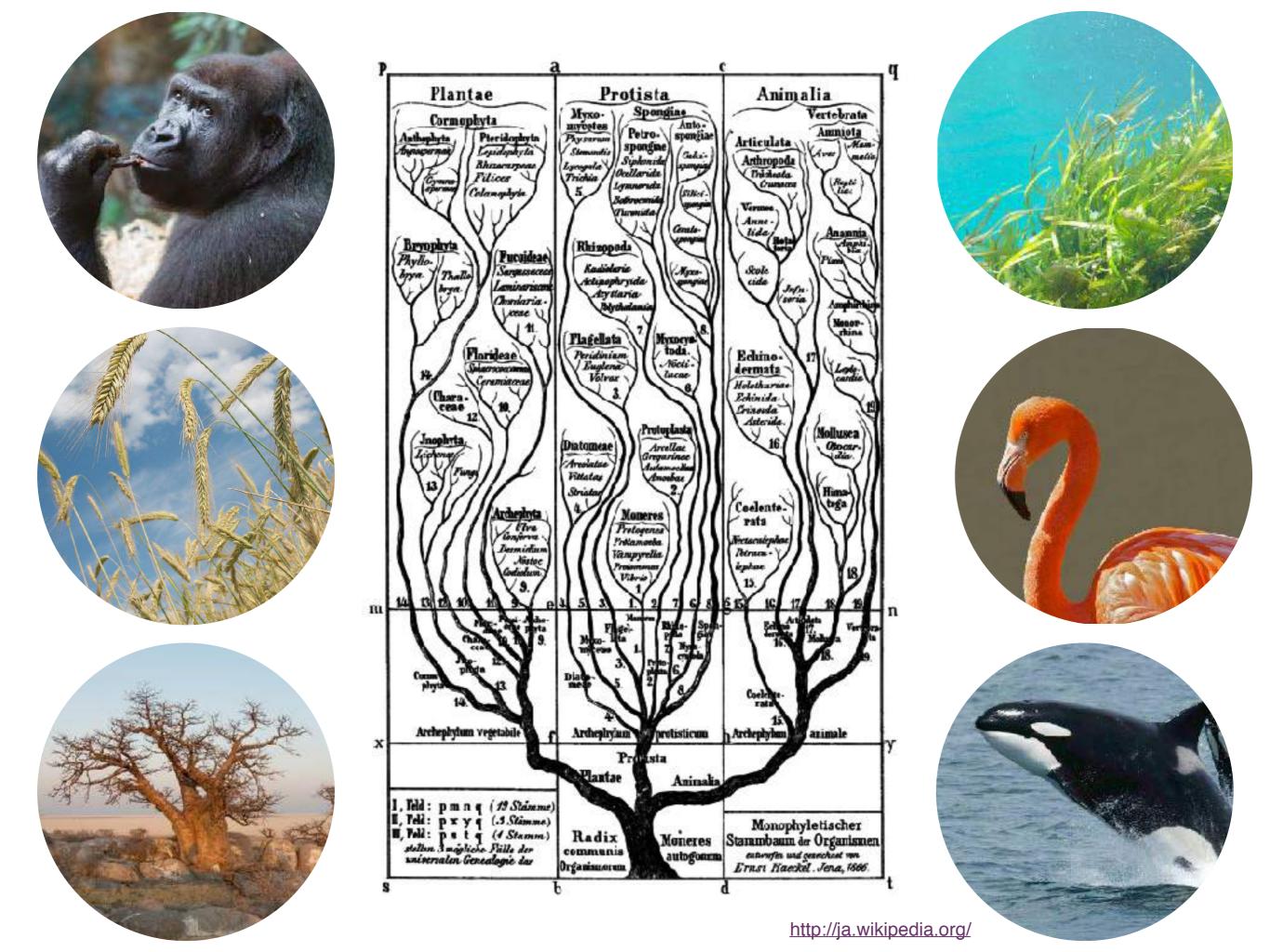
ゲノム情報解析入門



Pythonをはじめる - 実践 -



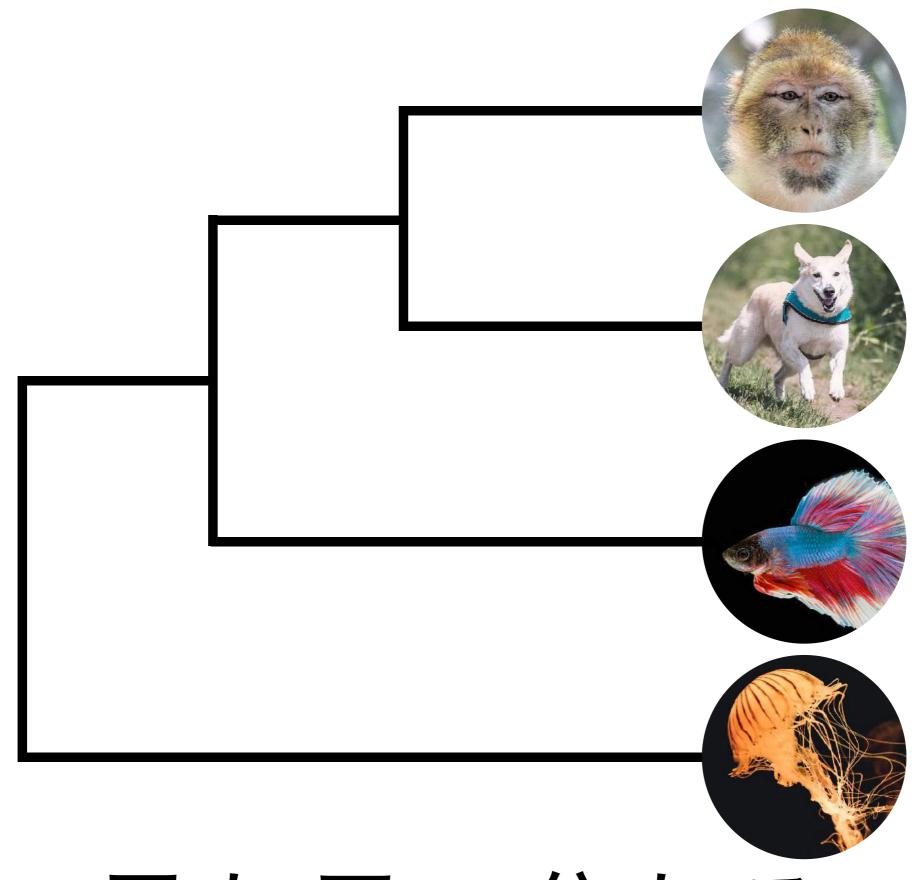




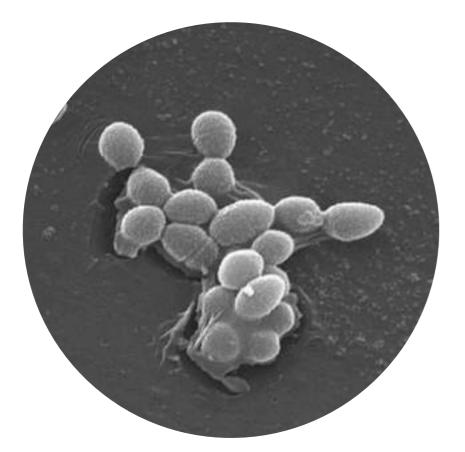
系統関係は?





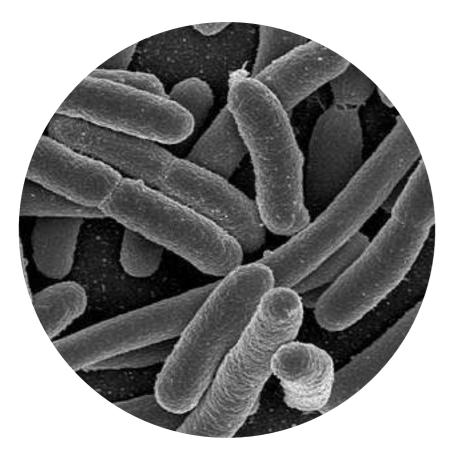


見た目で分かる

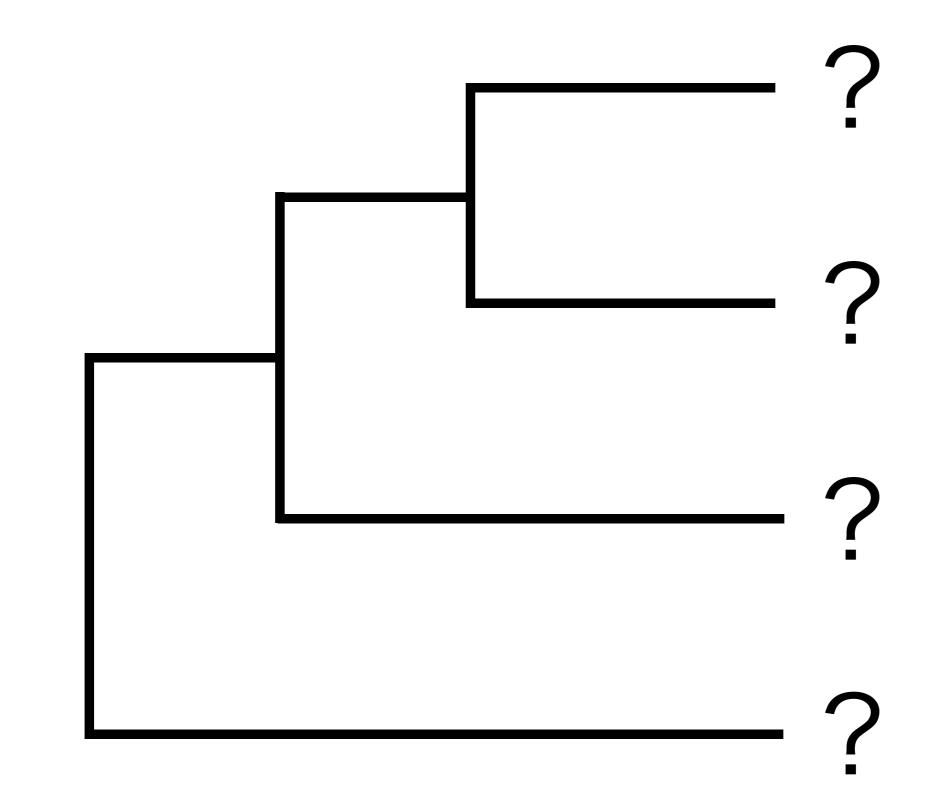




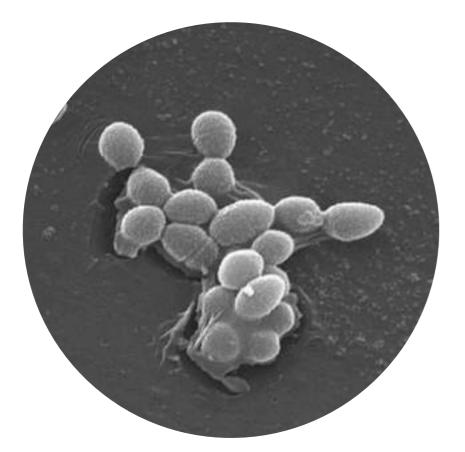
系統関係は?





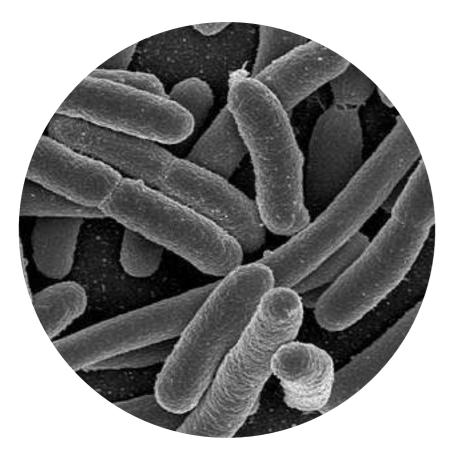


見た目で分類できない





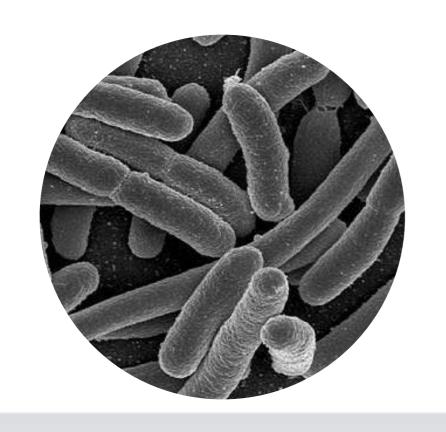
系統関係は?

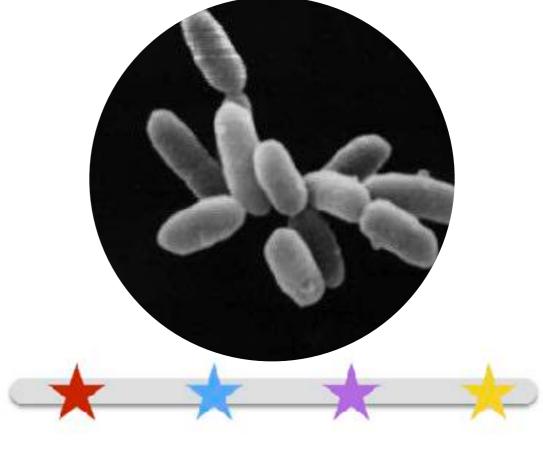


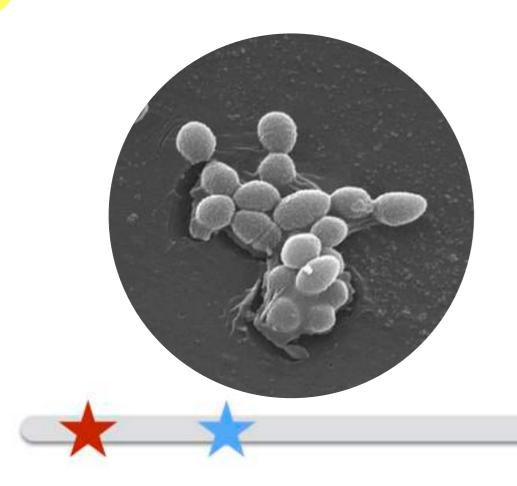




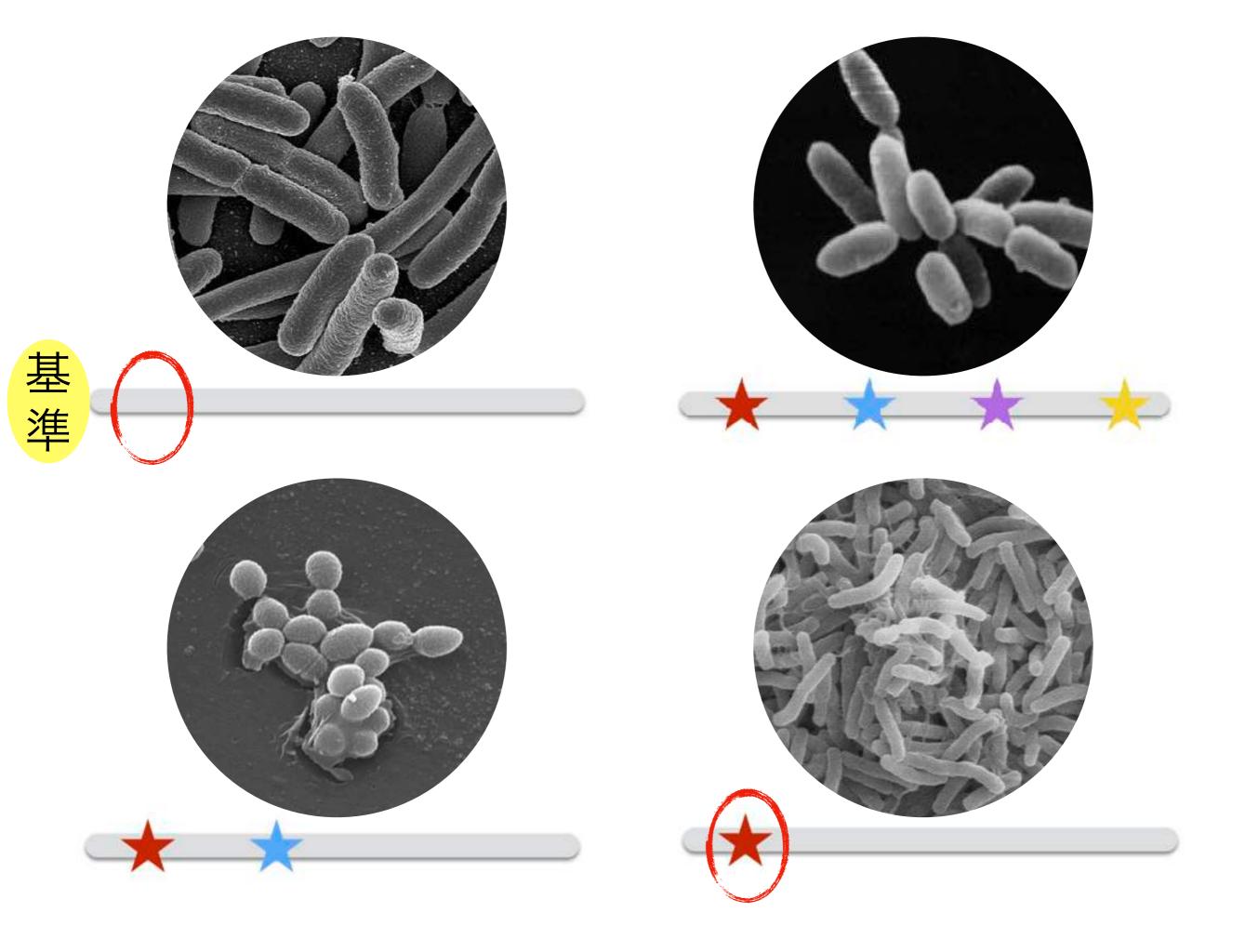
DNA西J

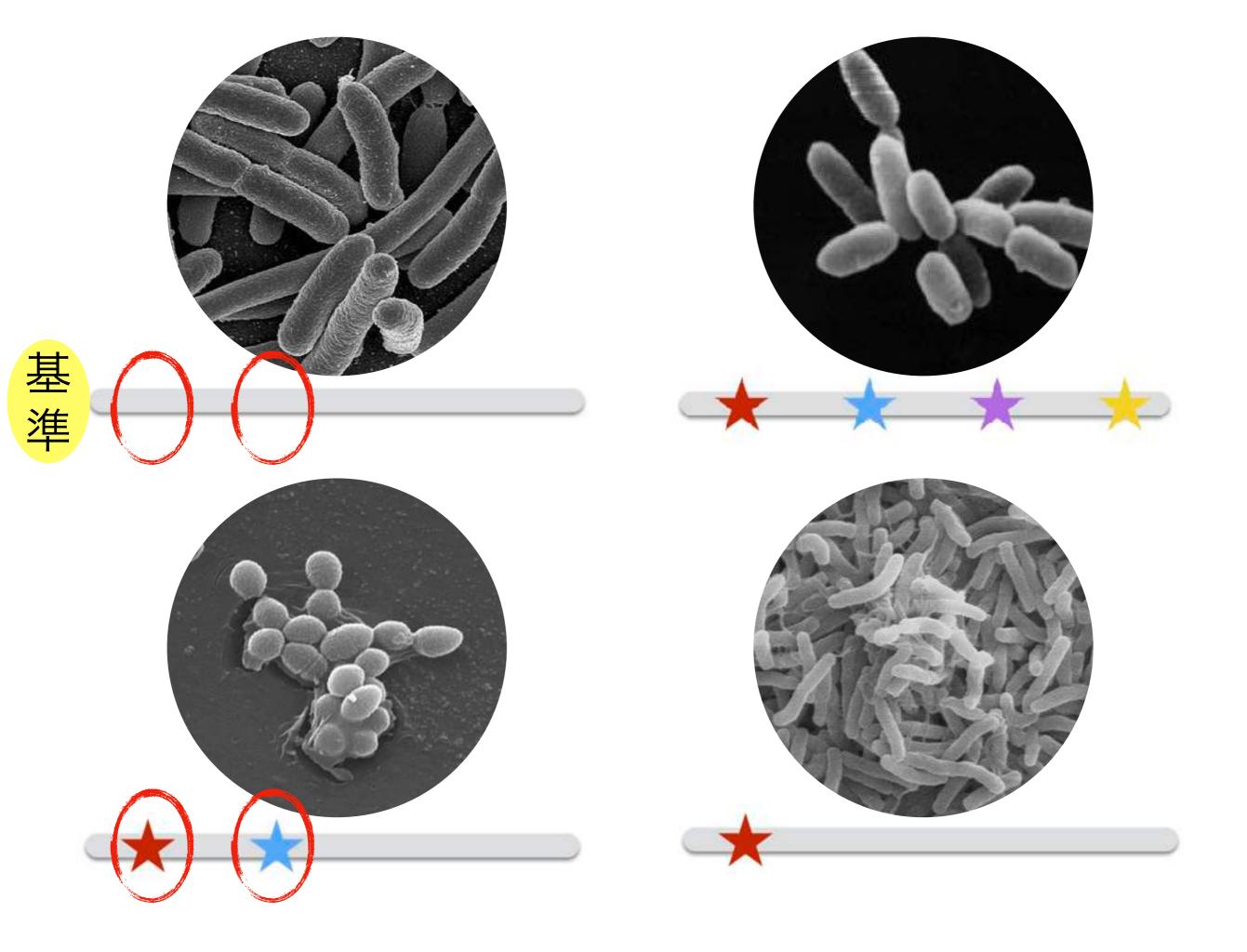


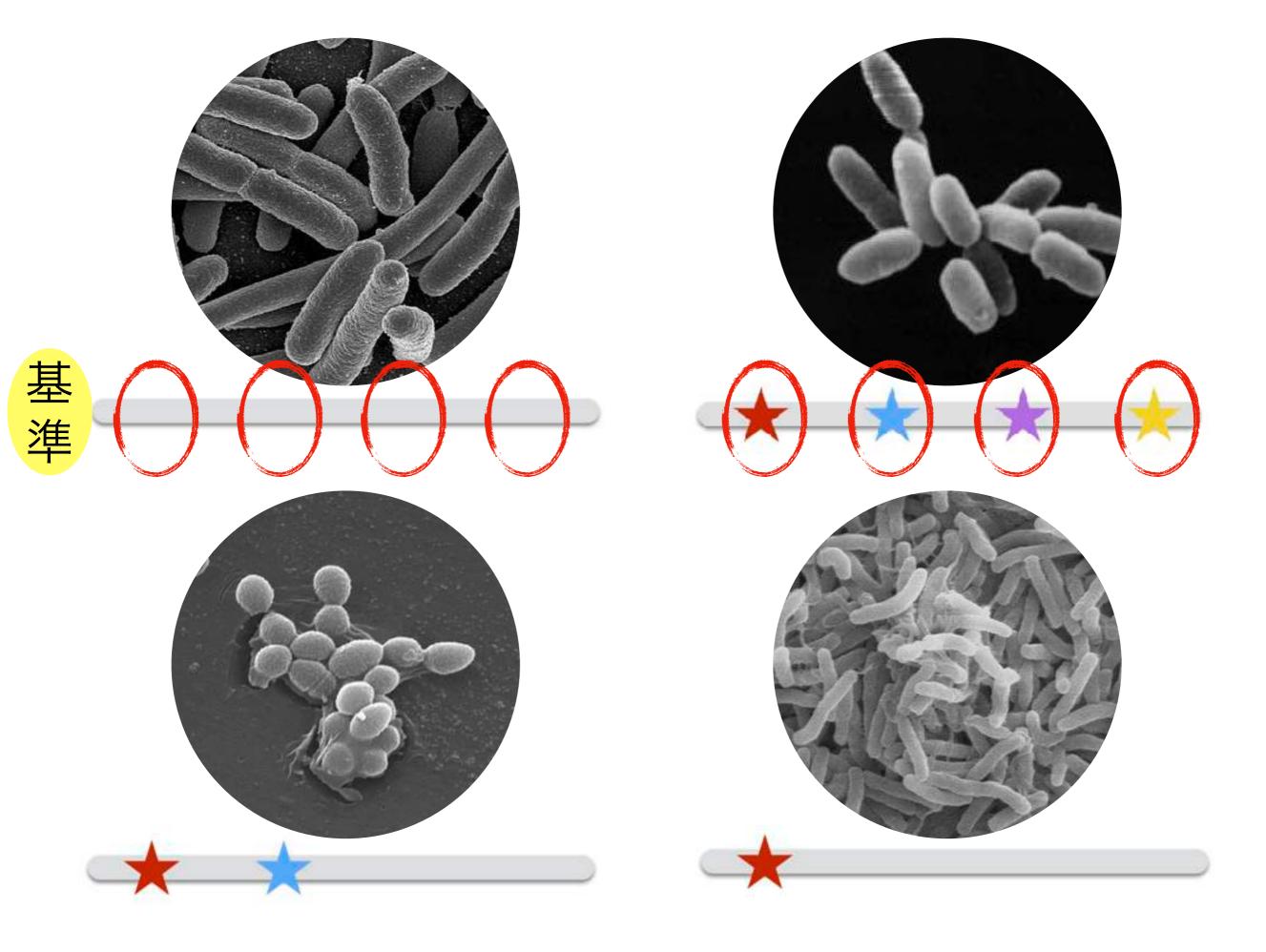


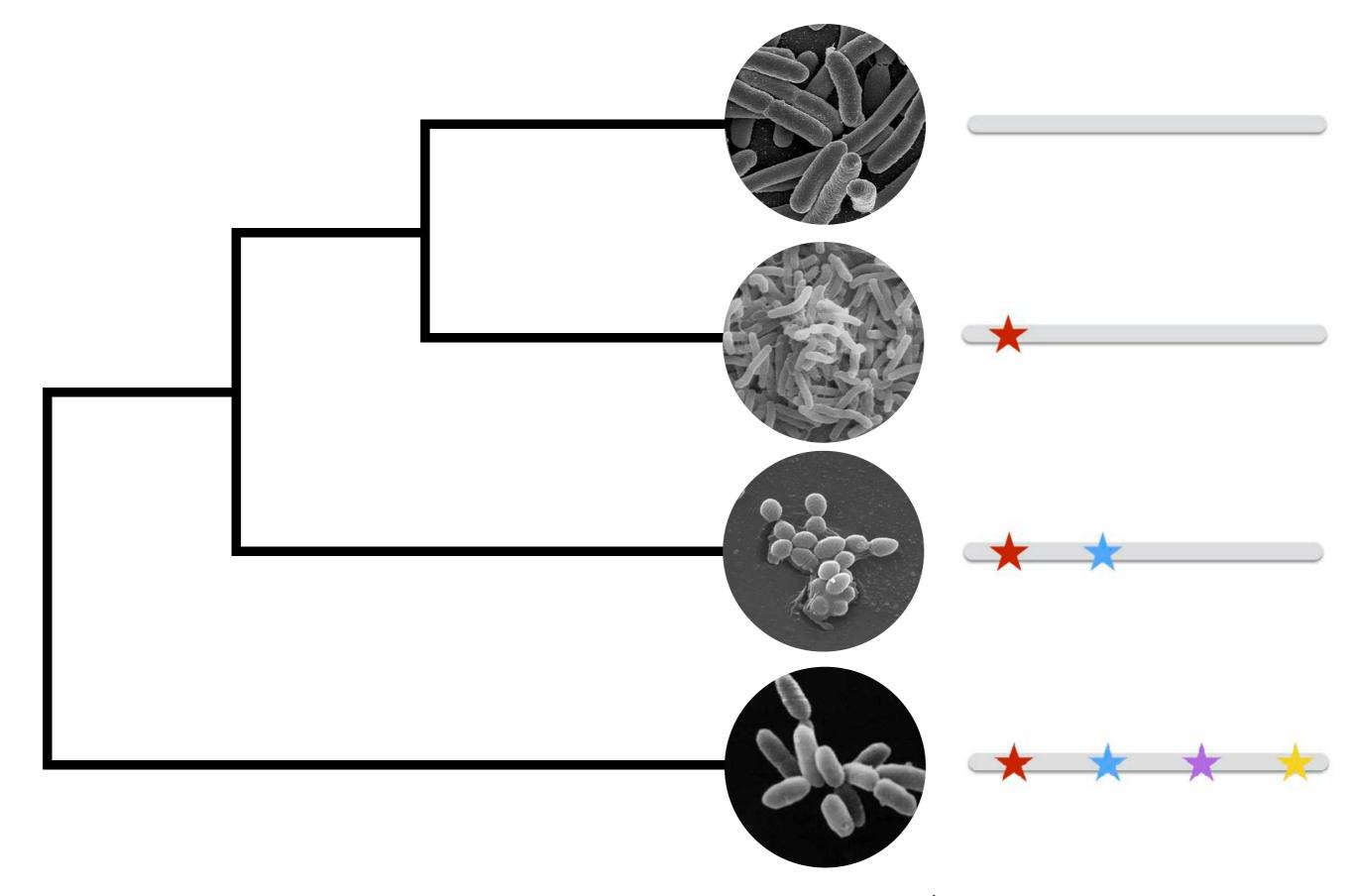




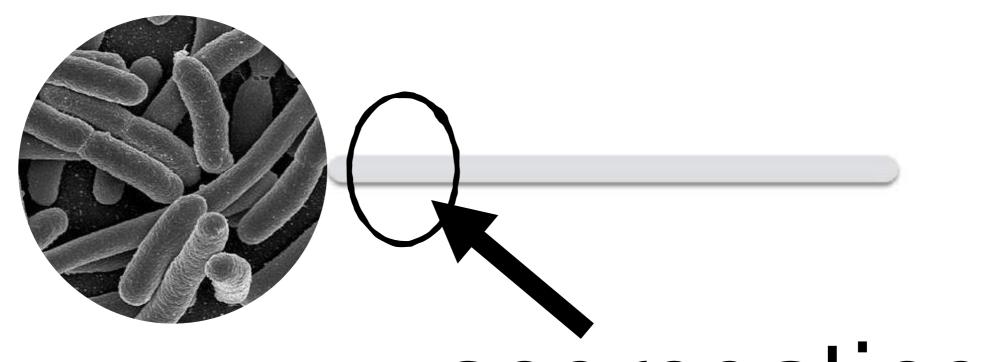




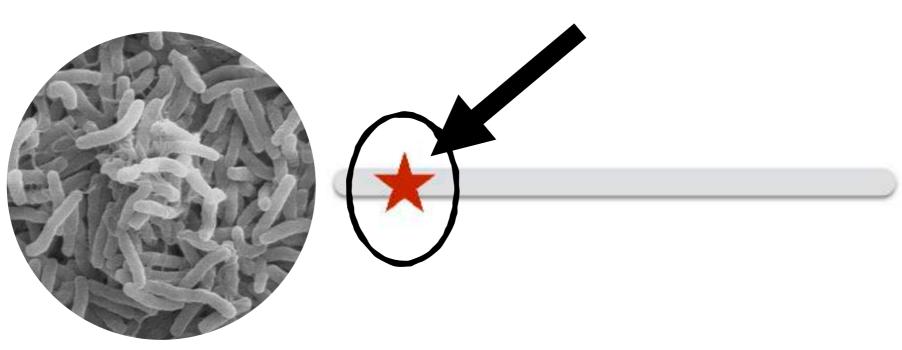




DNA配列で系統関係が分かる



segregating site



例 1)

segregating site



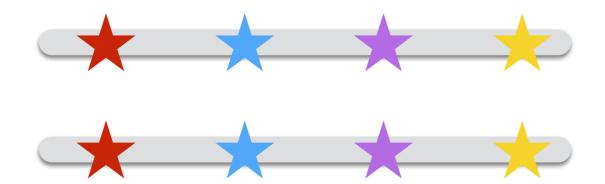
$$S = 4$$

例 2)





$$S = 1$$

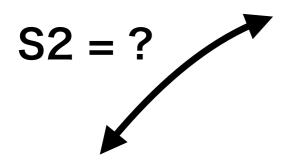


$$S = 0$$

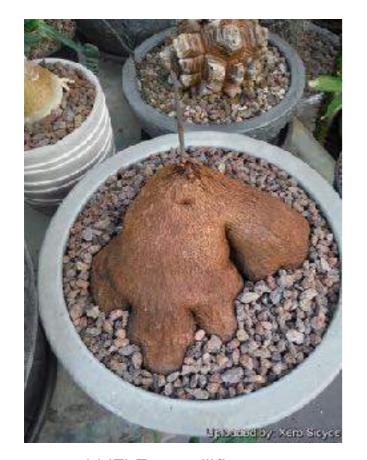
Pythonで 計算してみましょう

実際に計算してみましょう

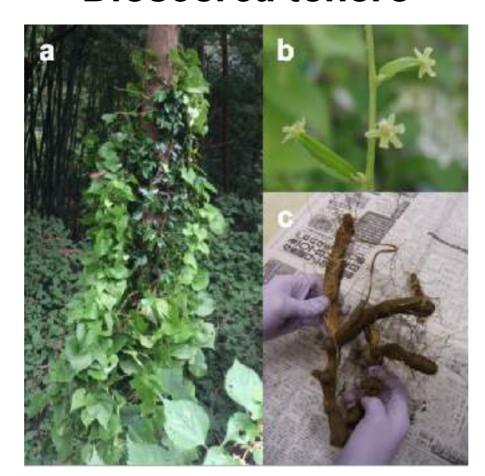
Dioscorea tokoro

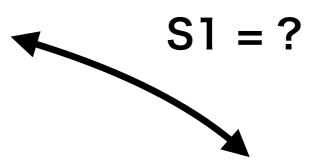


Dioscorea sylvatica



LLIFLE www.llifle.com





Dioscorea elephantipes



Wikipedia commons

ファイル 編集 表示 挿入 ランタイム ツール ヘルプ

+ コード + テキスト

>

- segregation site
 - nucleatide diversity
 - Fst

1. segregating site

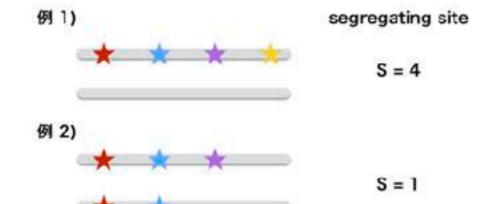
matKという遺伝子は植物の分類に用いられる遺伝子です。この遺伝子は幅広い植物で保存されています。塩基の欠失や挿入は扱いにくいため今回は除きましたが、一般的な系統樹では合めて計算します。

下のセルから、セスノイで属いる個の記測を読み込んでください。

#以下の3つの配列を比較してsegregation siteを求める # matK geneの配列

Dioscorea_tokoro = "GCAAAGGGACTTCCTATTCCTATATCCACTTCTCTTTCAGGAGTATATTTACACACTCGCTCATGATCATGATTTAAATGGTTCGATTTTTGTGGG
Dioscorea_sylvatica = "GCAAAGGCACTTCCTATTCCTATTCCACTTCTCTTTCAGGAGTATATTTACACACTTGCTCATGATCATGGTTTAAATGGTTCGATTTTTTGTGG
Dioscorea_elephantipes = "GCAAAGGCACTTCCTATTCCTATTCCACTTCTCTTTCAGGAGTATATTTACACACTTTGCTCATGATCATGGTTTAAATGGTTCGATTTTTTG

まずはDioscorea_tokoreとDioscorea_sylvaticaについて、関数を用いずにsegregation siteの数を求めてみましょう。segregating siteとは、二つの配列を比較した時に塩基が異なっている箇所のことです。



- segregation site
- · nuclectide diversity
- Fst

1. segregating site

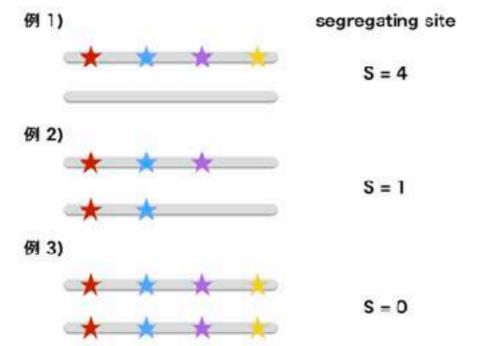
matKという遺伝子は植物の分類に用いられる遺伝子です。この遺伝子は幅広い植物で保存されています。塩基の欠失や挿入は扱いにくいため今回は除きましたが、一般的な系統樹では含めて計算します。

下のセルから、ヤマノイモ属の3種の配列を読み込んでください。

[] #以下の3つの配列を比較してsegregation siteを求める # matK geneの配列

Dioscorea_tokoro = "GCAAAGGGACTTCCTATTCCTATATCCACTTCTCTTTCAGGAGTATATTTACACACTCGCTCATGATCATGATTTAAATGGTTCGATTTTTGTGGG.
Dioscorea_sylvatica = "GCAAAGGCACTTCCTATTCCTATATCCACTTCTCTTTCAGGAGTATATTTACACACTTGCTCATGATCATGGTTTAAATGGTTCGATTTTTTGTGG.
Dioscorea_elephantipes = "GCAAAGGCACTTCCTATTCCTATATCCACTTCTCTTTCAGGAGTATATTTACACACTTGCTCATGATCATGGTTTAAATGGTTCGATTTTTTG

まずはDioscorea_tokoroとDioscorea_sylvaticaについて、関数を用いずにsegregation siteの数を求めてみましょう。segregating siteとは、二つの配列を比較した時に塩基が異なっている箇所のことです。



Dioscorea tokoroと Dioscorea sylvaticaについて Segregating site数を求めましょう

求められたら自作関数を作って 残りも計算しましょう

D. tokoro と D. sylvatica の Segregating site数を求める

```
S = 0 # Segregation siteの初期値
```

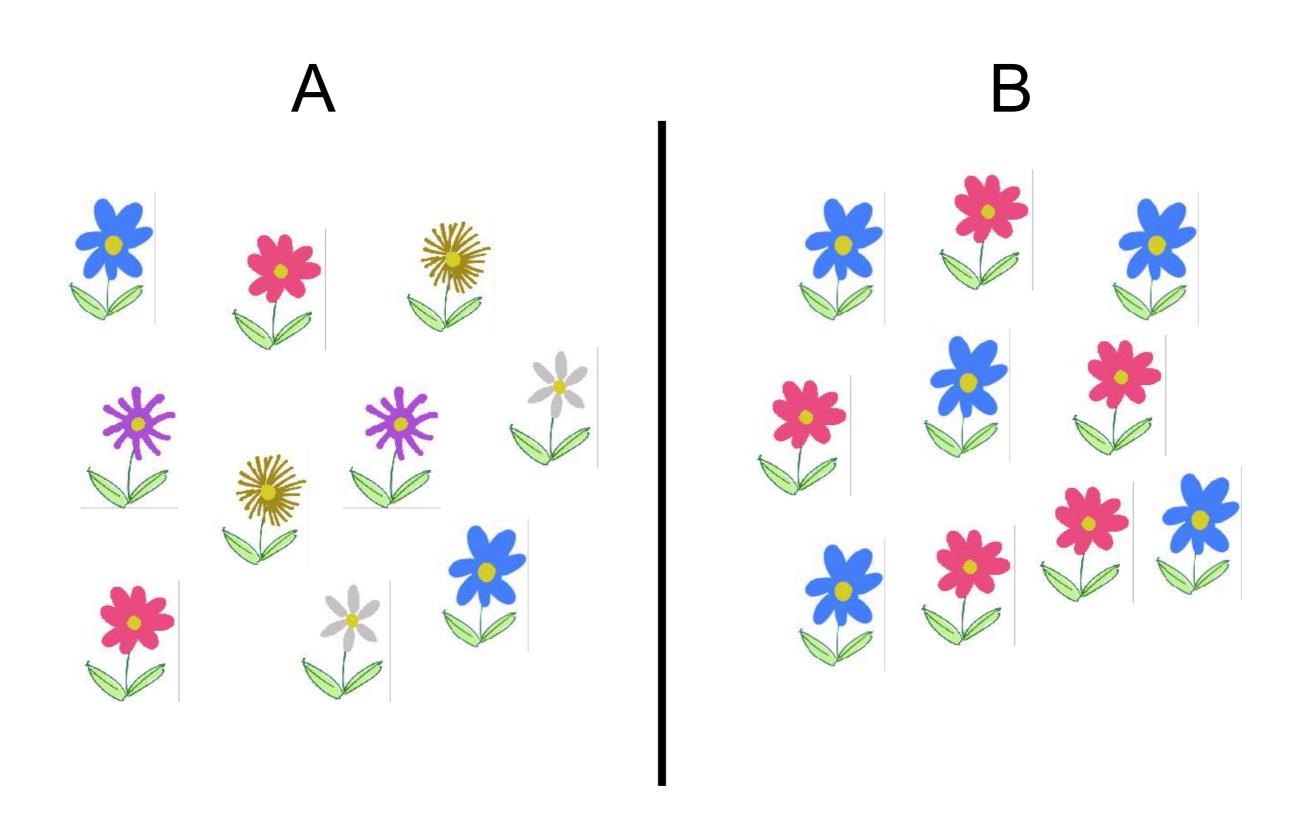
```
# 2種の塩基配列のループ処理
for nuc1, nuc2 in zip(Dioscorea_tokoro, Dioscorea_sylvatica):
if nuc1!= nuc2: # tokoroの塩基とsylvaticaの塩基が異なる場合、
S = S + 1 # Segregation siteの値を1増やす
```

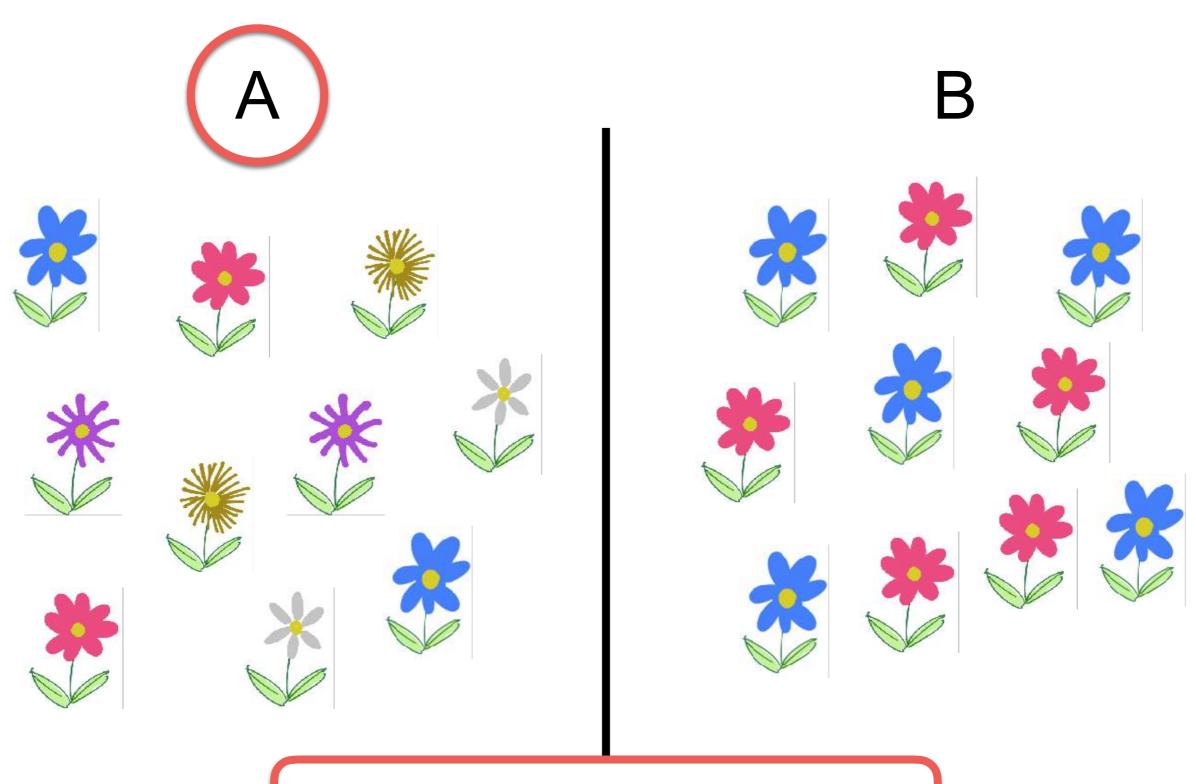
print(S) # 最終的なSegregation siteの値を出力する

tokoro sylvatica 🙏 elephantipes

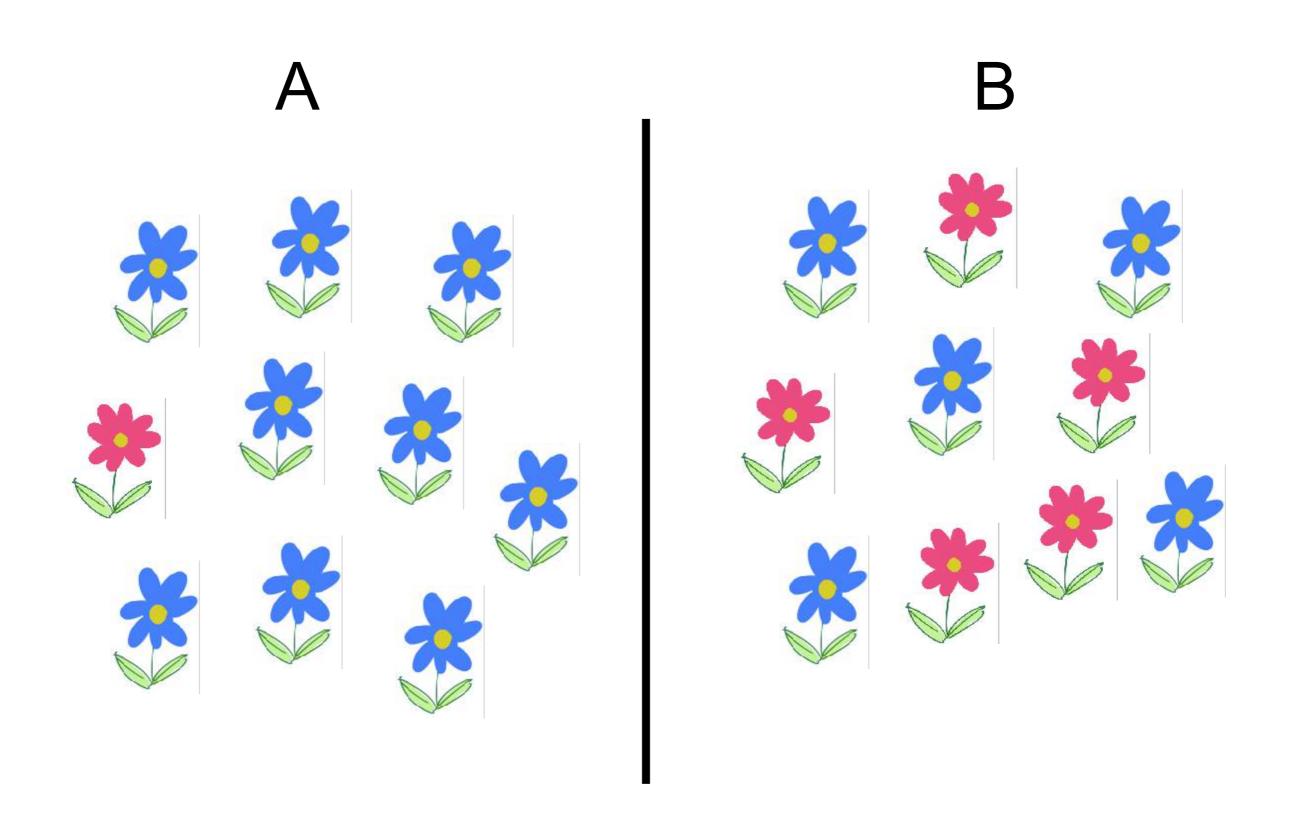


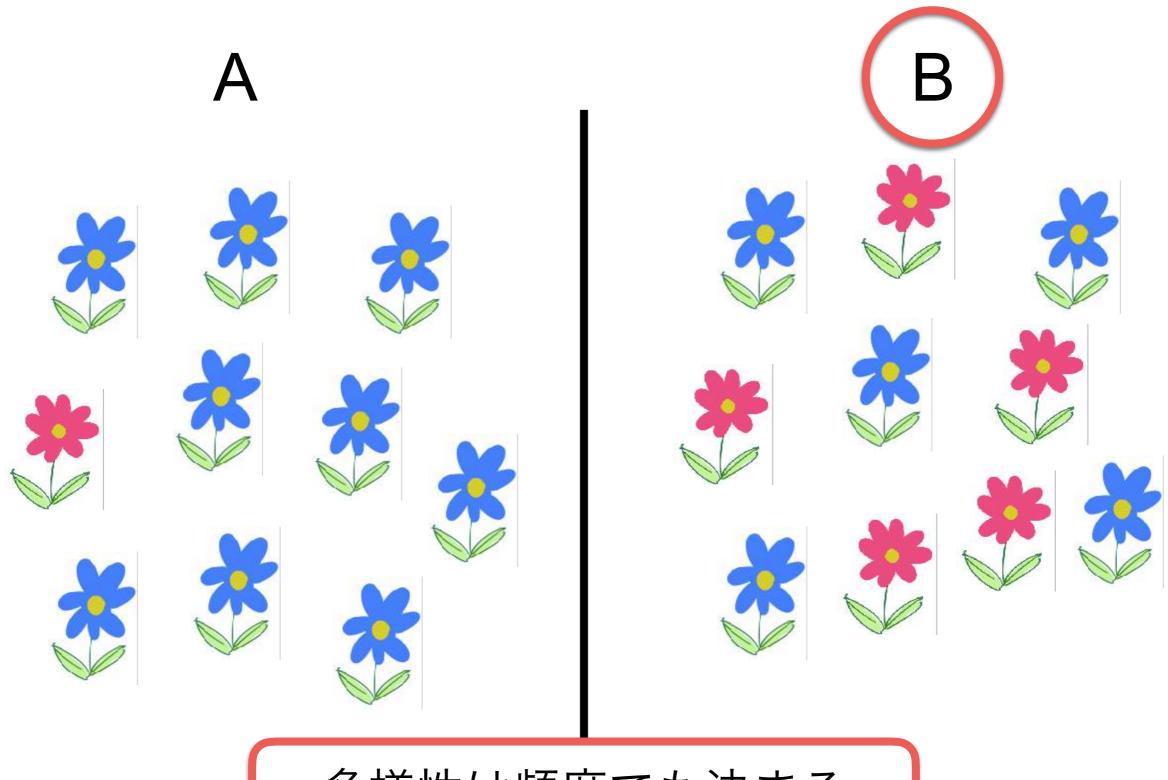
segregating siteで 多様性が分かる





多様性は種類で決まる





多様性は頻度でも決まる



種類

頻度

多様性

多様性の評価(方法1)

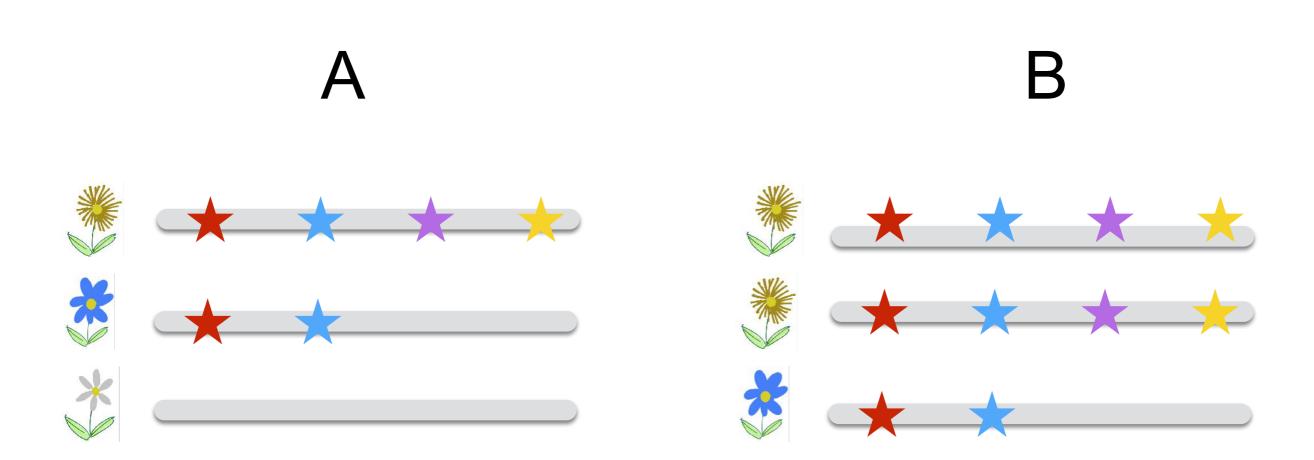
$$S = 2$$

$$S = 2$$

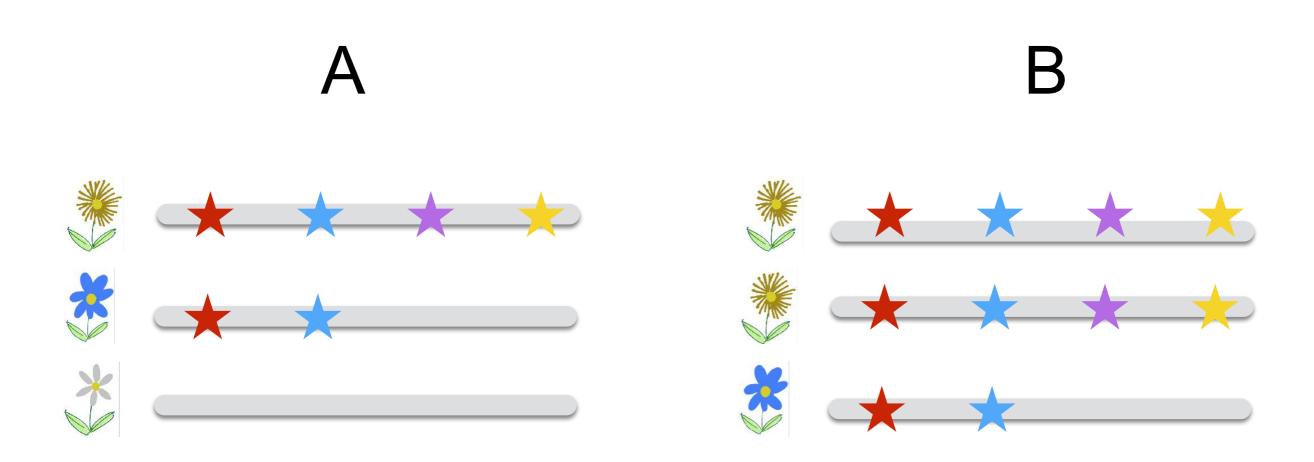
$$S = 2$$

$$\pi = \frac{(全ての組み合わせのSの総和)}{(配列の組み合わせ)} = \frac{2+2+4}{3} = \frac{8}{3}$$

どちらが多様でしょうか?



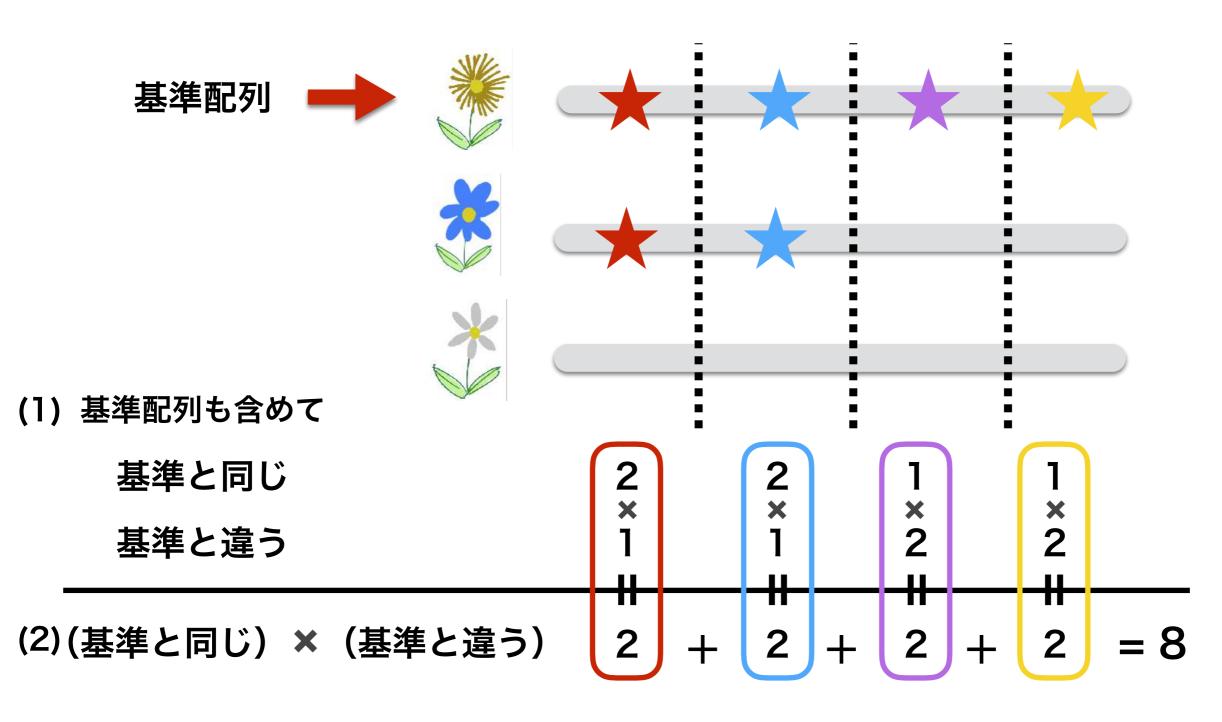
どちらが多様でしょうか?



$$\frac{2+2+4}{3} = \frac{8}{3} > \frac{0+2+2}{3} = \frac{4}{3}$$

多様性の評価(方法2)

※ 方法1と方法2は同じ結果を示します。



(3) 配列の総組み合わせで割る

 $8 / 3C_2 = 8/3$

実際に計算してみましょう

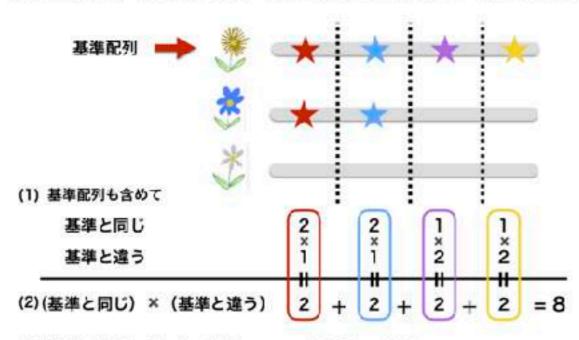


+ コード + テキスト

2. nucleotide diversity

実際のデータを使って多様性(π , nucleotide diversity)を計算しましょう。

nucleotide diversityとは、複数の個体(配列)において塩基配列に違いがある確率を示す値で、下の図のように、一塩基ずつ基準配列と違いがあるか見ていくことで計算することができます。また、nucleotide diversityは π という記号で表されることが一般的です。



(3) 配列の総組み合わせで割る

以下は、青森県、京都府、鹿児島県でのオニドコロの配列の一部を切り取ったデータです。それぞれの地域で10個体(二倍体なので、計20本の染色体)をサンプルしたとしましょう。

まずは以下のデータを読み込みましょう。

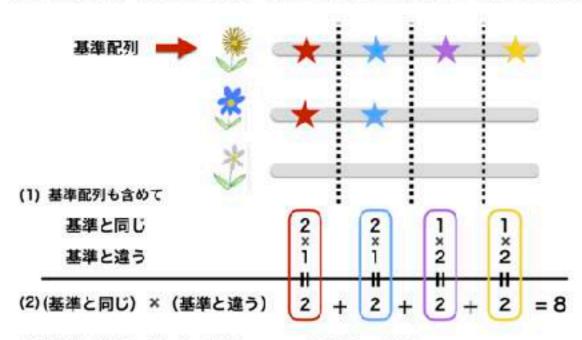
[] #nucleoticle diversity #基準と同じ塩基の数(ref)と、基準と違う塩基の数(い)がそれぞれわかっていて、リストになっている。

ref_kyoto = [18, 16, 8, 19, 14, 8, 16, 20, 19, 18, 11, 13, 11, 19, 7, 6, 20, 20, 15, 7, 20, 18, 20, 5, 16, 20, 15, 16, 13, 19, 18, 9, 20, 2, 10, 12, 14, 13, 13, 11, 19, alt_kyoto = [2, 4, 12, 1, 6, 12, 4, 0, 1, 2, 9, 7, 9, 1, 13, 14, 0, 0, 5, 13, 0, 2, 0, 15, 4, 0, 5, 4, 7, 1, 2, 11, 0, 18, 10, 8, 6, 7, 7, 9, 5, 13, 12, 20, 12, 1, 7, 2, 4, 15, 0

2. nucleotide diversity

実際のデータを使って多様性(π , nucleotide diversity)を計算しましょう。

nucleotide diversityとは、複数の個体(配列)において塩基配列に違いがある確率を示す値で、下の図のように、一塩基ずつ基準配列と違いがあるか見ていくことで計算することができます。また、nucleotide diversityは π という記号で表されることが一般的です。



(3) 配列の総組み合わせで割る

以下は、青森県、京都府、鹿児島県でのオニドコロの配列の一部を切り取ったデータです。それぞれの地域で10個体(二倍体なので、計20本の染色体)をサンプルしたとしましょう。

まずは以下のデータを読み込みましょう。

[] #nucleotide diversity #基準と同じ塩基の数(ref)と、基準と違う塩基の数(alt)がそれぞれわかっていて、リストになっている。

ref_kyoto = [18, 16, 8, 19, 14, 8, 16, 20, 19, 18, 11, 13, 11, 19, 7, 6, 20, 20, 15, 7, 20, 18, 20, 5, 16, 20, 15, 16, 13, 19, 18, 9, 20, 2, 10, 12, 14, 13, 13, 11, 19, alt_kyoto = [2, 4, 12, 1, 6, 12, 4, 0, 1, 2, 9, 7, 9, 1, 13, 14, 0, 0, 5, 13, 0, 2, 0, 15, 4, 0, 5, 4, 7, 1, 2, 11, 0, 18, 10, 8, 6, 7, 7, 9, 5, 13, 12, 20, 12, 1, 7, 2, 4, 15, 0

ref_aomoriとalt_aomoriの 多様性(π)を求めるコードを参考にして 自作関数を作りましょう

```
# Nucleotide diversityを求める関数
def diversity(ref, alt):
  nume=0 #分子
  # (基準と同じ)*(基準と違う)の結果を足していく
  for ref_n, alt_n in zip(ref, alt):
    nume = nume + ref n*alt n
  n = ref[0] + alt[0] # refとaltの最初の要素を足したものが染色体の本数n
         # この場合、染色体の本数nはどれも同じなので、これでも良い
  #n = 20
  pi = nume/(n * (n-1)/2) # πの計算
                        # πの値を呼び出し元に返す
  return pi
# diversity関数を使って、各集団のNucleotide diversityを求める
pi1 = diversity(ref_aomori, alt_aomori)
                             # 京都
pi2 = diversity(ref_kyoto, alt_kyoto)
pi3 = diversity(ref_kagoshima, alt_kagoshima) # 鹿児島
print(pil)
print(pi2)
```

print(pi3)

3地点の関係(遺伝的な距離)は?



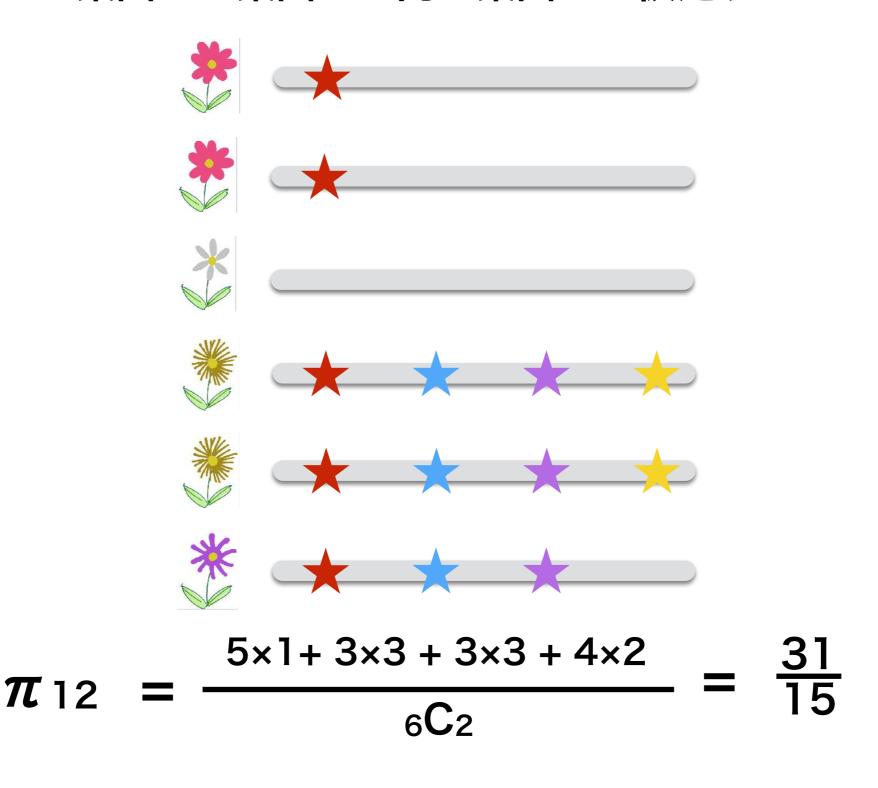
集団間の遺伝的距離の評価方法

$$F_{ST} = \frac{\pi_{12} - (\pi_1 + \pi_2)/2}{\pi_{12}}$$

$$F_{ST} = \frac{\pi_{12} - (\pi_1 + \pi_2)/2}{\pi_{12}}$$

$$F_{ST} = \frac{(\pi_{12} + (\pi_1 + \pi_2)/2)}{\pi_{12}}$$

集団1と集団2が同じ集団だと仮定する



集団間の遺伝的距離の評価方法

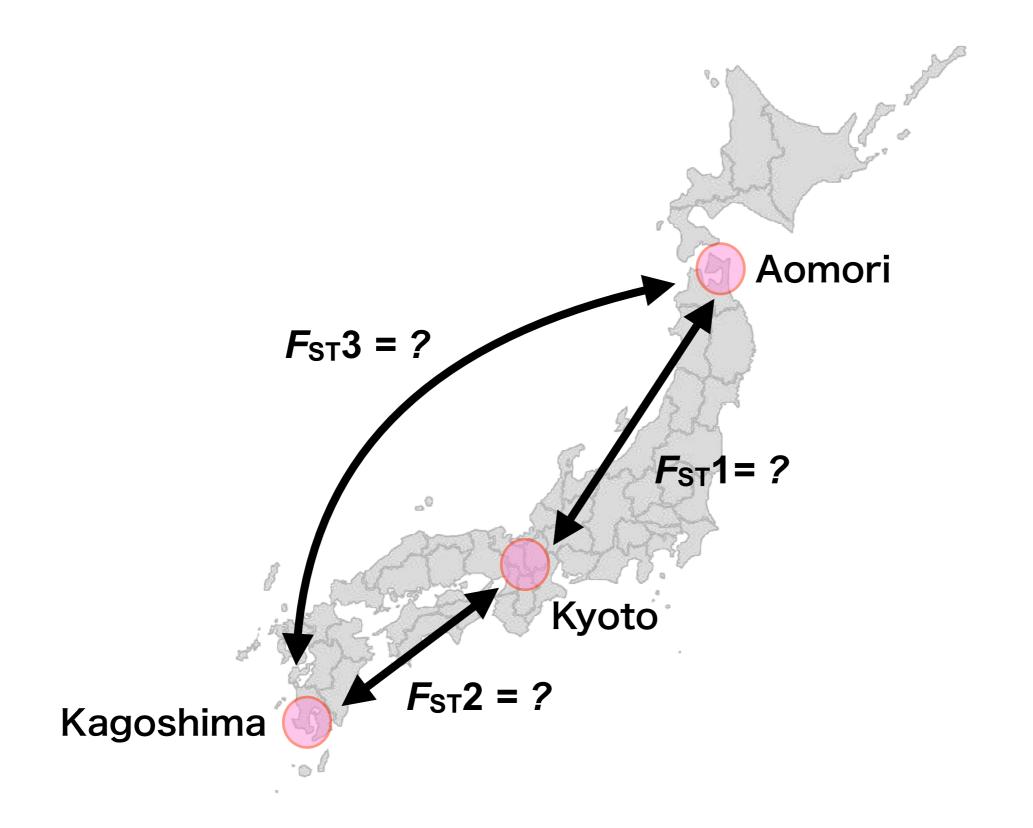
$$F_{ST} = \frac{\pi_{12} - (\pi_1 + \pi_2)/2}{\pi_{12}}$$

$$= \frac{\frac{31}{15} - (\frac{2}{3} + \frac{2}{3})/2}{\frac{31}{15}}$$

$$=\frac{21}{31}$$

 F_{ST} は $0 \sim 1$ の間の値をとる指標で、およそ0.4より大きいと高いと言われています。

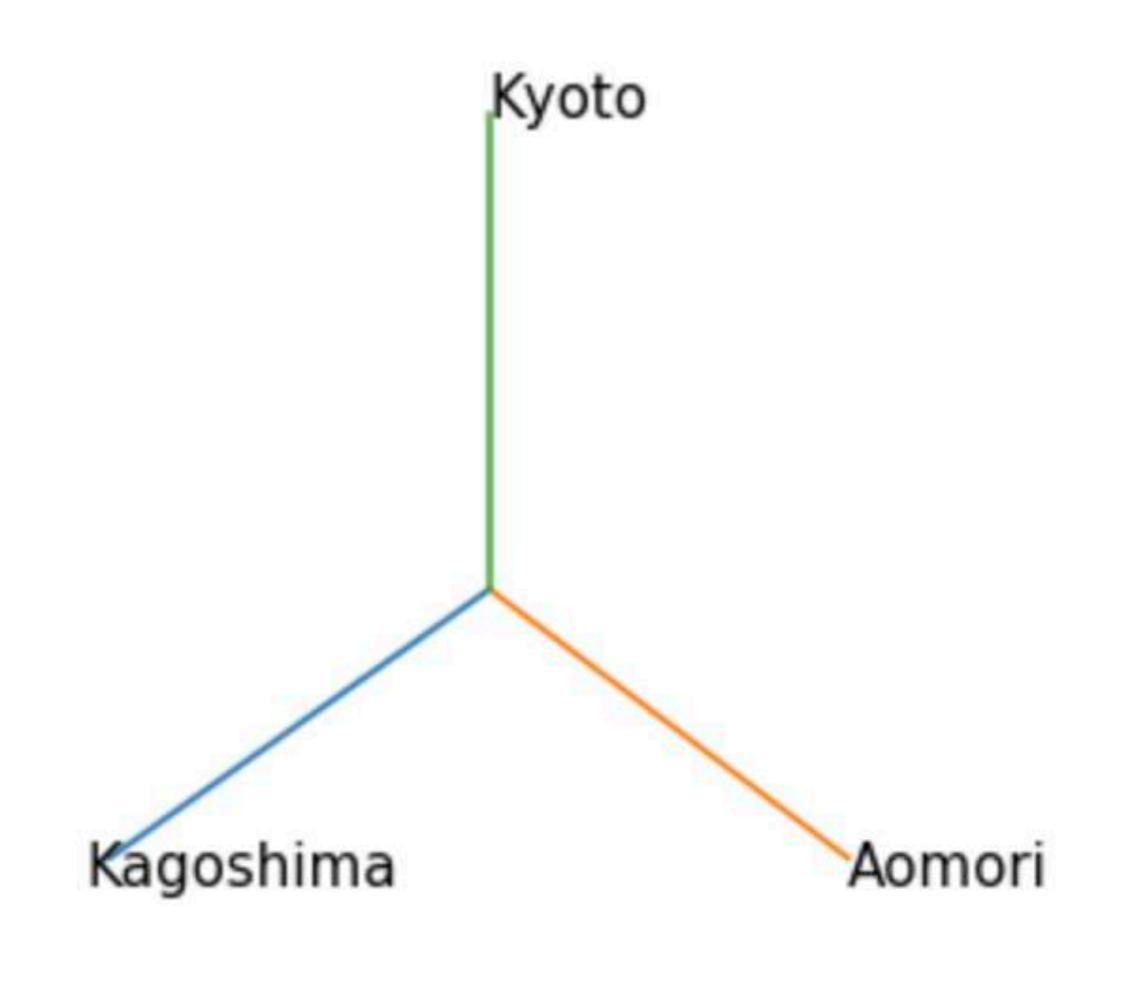
実際に計算してみましょう



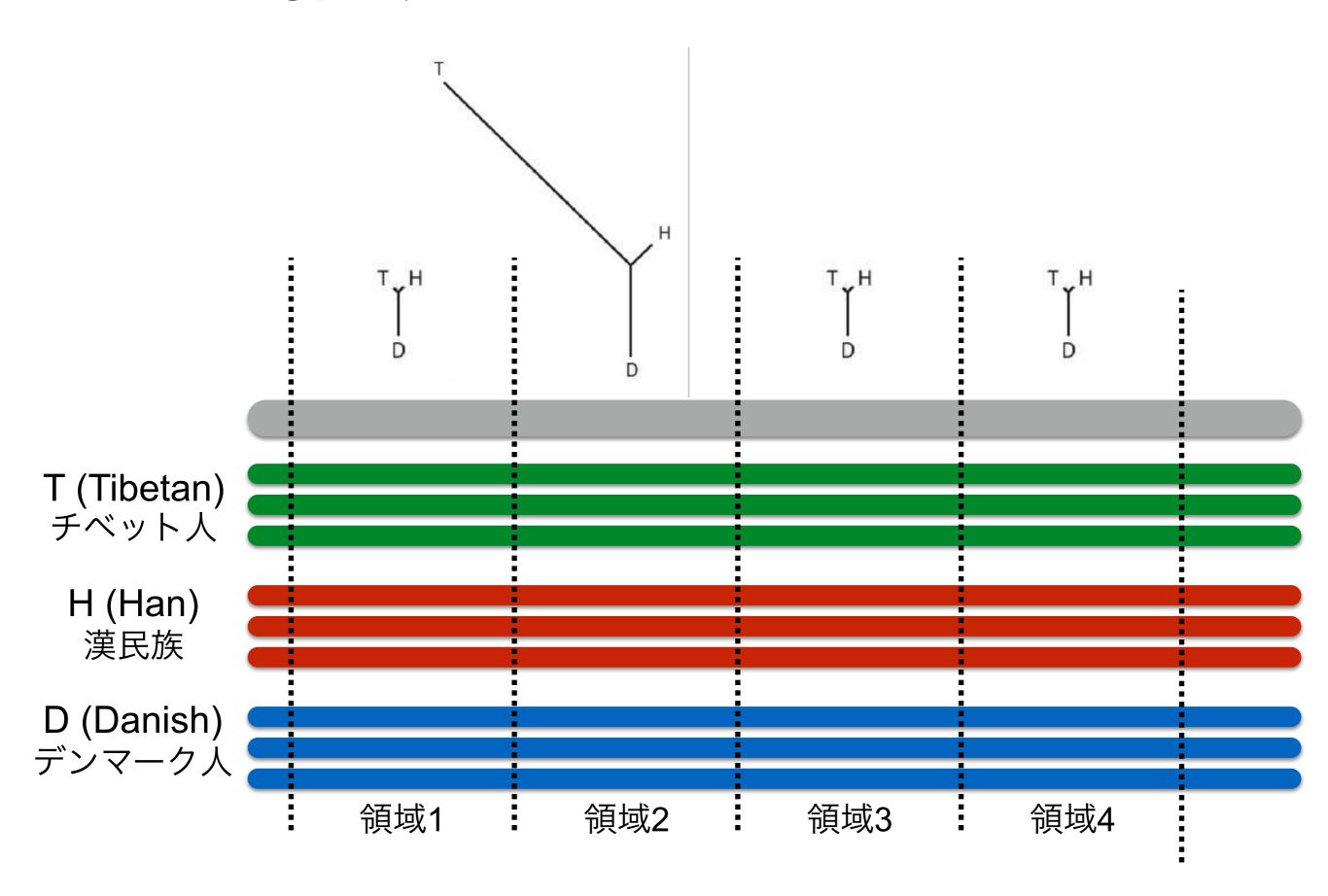
京都と青森の間の 遺伝的距離(Fst)を求めましょう

求められたら関数を作って 残りも計算しましょう

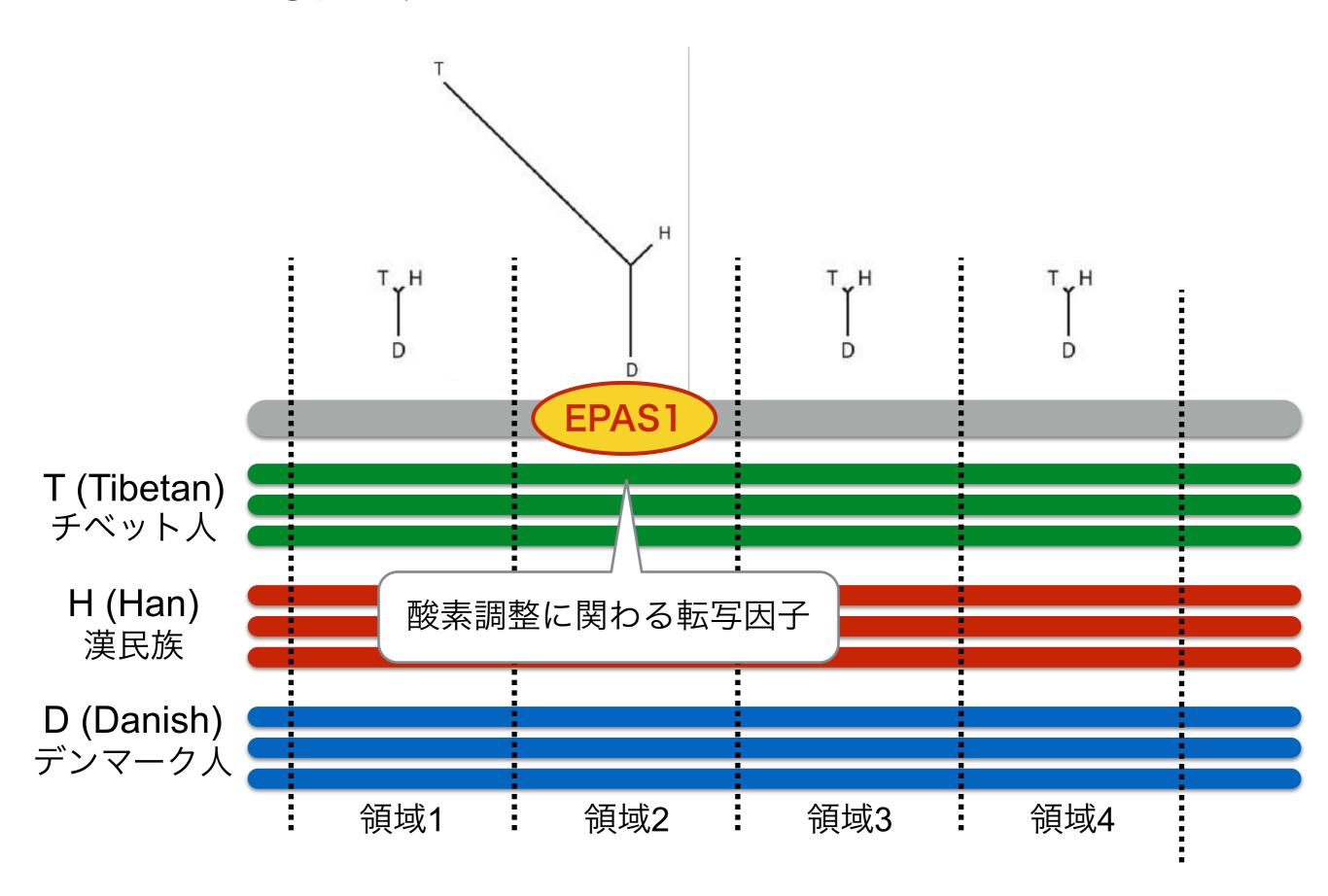
```
#青森と京都の間のFstを求める
# === ref 12を作成する ===
#2つの集団を合わせた場合のrefを入れるリストを準備する
ref12 = []
# すべての要素(塩基座位)について和を求める
for ref_n1, ref_n2 in zip(ref_aomori, ref_kyoto):
 ref12.append(ref_n1 + ref_n2) # 要素同士の和をリストに追加する
# === alt12を作成する ===
alt12 = []
for alt_n1, alt_n2 in zip(alt_aomori, alt_kyoto):
 alt12.append(alt_n1 + alt_n2)
# === 各πを求める===
# 実習3で作ったdiversity関数を用いて、青森集団のpilを求める
pil = diversity(ref aomori, alt aomori)
#同様に、京都集団のpi2と、青森と京都を合体した集団のpi12を求める
pi2 = diversity(ref_kyoto, alt_kyoto)
pi12 = diversity(ref12, alt12)
# === Fstを計算する ===
fst = (pi12-(pi1+pi2)/2)/pi12
print(fst)
```



FsTを用いてのゲノムスキャン



FsTを用いてのゲノムスキャン



課題

Exercise 1, 2, 3

期限: 2019年11月11日(月)